

6号ポット夏秋トマト栽培における 肥効調節型肥料の効率的な利用方法

福島県農業総合センター作物園芸部野菜科

1 部門名

野菜—トマト—施肥法

2 担当者

笠井友美・三田村春香

3 要旨

6号ポットと簡易な灌水システムを利用した夏秋トマト栽培において、溶出日数 100 日タイプの肥効調節型肥料を 1 ポット当たり窒素成分量で 10g施用することで、安定した収量が得られる。

- (1) スーパーエコロング 413 の累積窒素溶出率は、一般的な摘心時期である 9 月下旬時点で、100 日タイプで 87.1%と高く、含まれる窒素成分が生育初期より、効率よく安定的に溶出する(図1)。
- (2) 施肥量については、100 日タイプを 1 ポット当たり窒素成分量 10gまたは 15g 施用することで、5g 施用した場合と比較して、可販果収量が多くなる(図 2)。
- (3) 6 号ポット夏秋トマト栽培では、スーパーエコロング 100 日タイプを1ポット当たり窒素成分量 10g 施用することで、効率よく肥料を利用することができ、1a(340 株) 当たり 780kg程度の収量が確保できる。

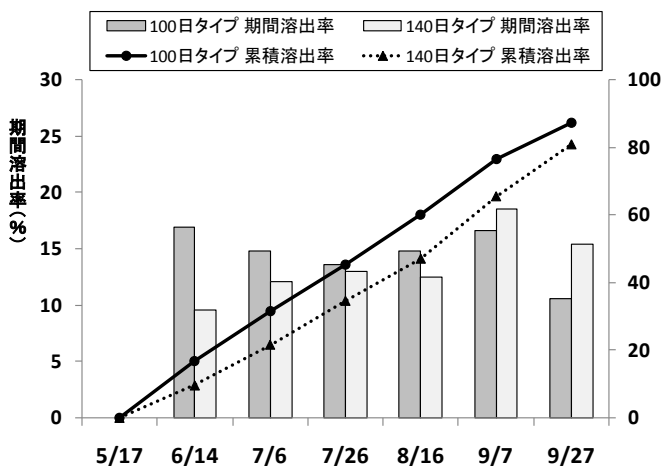


図1 スーパーエコロング 413 の窒素溶出率(2016 年)

(※一般的な摘心時期までの窒素溶出率を測定)

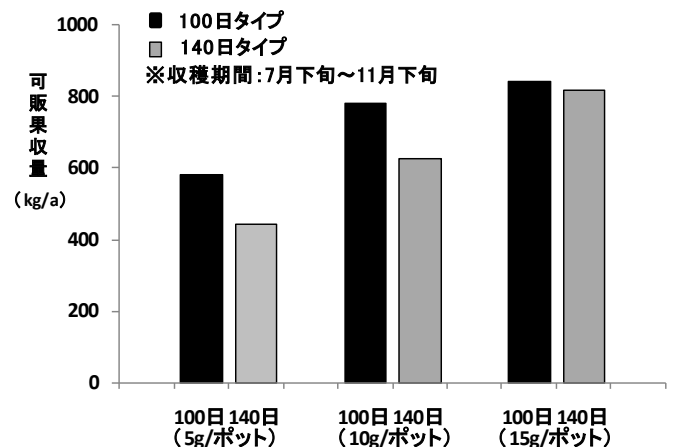


図2 a当たりの可販果収量(2015 年)

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成 27 年度～28 年度
- (2) 研究課題名 新資材・肥料の効率的利用法 6号ポット栽培の適正施肥量
- (3) 参考となる成果の区分 (終了参考)

5 主な参考文献・資料

- (1) 平成 26 年度センター実用化技術情報「6号ポットと簡易な灌水システムを利用した夏秋トマト栽培」

(活用した事業名: 公益社団法人福島県植物防疫協会 新農業等に関する試験研究事業)